

ほっとほっとタイムズ—第3号—

2023.6.2

井萩小学校 特別支援教育校内委員

先日は、運動会をご参観いただき、ありがとうございました。久しぶりの制限なしの運動会、子供たちの応援の歌や校歌の歌声、はつらつとして素敵でしたね。学校は今、長い間お休みしていた朝遊びも支援本部の方々の協力を得て再開し、朝から子供たちの元気な声が響いています。

朝遊びが始まって3日目の朝のことです。中学年の子どもたちが数人、職員室に固まってやってきました。「先生、水筒、届いていませんか？」(8時前、中庭に水筒だけが並んでいましたが、子供の登校時には教員が集めて職員室に置いてありました。)
「どうしてここにあるのかな？」「えっ？」「ランドセルは校庭の犬走りに置いたんでしょう？どうして水筒だけ昇降口前においてあったの？」

「だって、きまりをきいていません！」「先生に言われていません！」

「ちょっと待って！先生は怒っているわけではないんだよ。ちょっと想像してみよう。みんなが昇降口に水筒を置きっぱなしにしたら、どうなるだろう」と声をかけてみると、「場所取りされてるみたいで、いやな気がする」との答え。(どうやら、教室に一番入りたいための場所取りの水筒だったようです。)
「急いできた人は気が付かないで、蹴っ飛ばすかもしれないねえ。」「いやだあ。」「それじゃどうすればいいと思う？」と問かけると、「ランドセルと一緒に犬走りに置く」と返事が返ってきたので、「次から、そうしてね」と声をかけ、「はあい」という元気な返事とともに水筒を持って出ていきました。

さて、皆さんはこの出来事から何を思われますか？私は子どもの返事に考えさせられました。「決まりにないから」という判断でよいのでしょうか。そうではなく、「その行動をした時、自分も人も困らないか」ということが一番ではないのでしょうか。そのために「決まり」もできているのだと思います。「決まりだから」「怒られるから」従うのではなく、「自分で考えて正しいと判断して」行動できる子供に育てたいと思います。しかし、現実は違いました。でも、それは個々の子供のせいではなく、取り巻く大人のかかわり方の問題です。

今回の場合、子供たちのとった行動は正しくなかったかもしれませんが、でも、そのことによって、何が大事か、どう考えるべきか、学んでくれたのではないのでしょうか。失敗しないように決まりで縛ればよいわけではないのです。そしてまた、もし、正論を大人が振りかざして従わせようとしたらどうだったでしょう。子供たちは自ら考えて判断することはできなかつたかもしれません。私たち大人が、どういう子供を育てたいのか考えて対処する、その一つ一つが子供を育てるのだと思います。そして、その機会実は日々の生活の中にたくさん転がっているのです。

1年生は、5月半ばに朝顔の種をまき、「芽が出たー！」と満面の笑顔で報告してくれています。2年生はミニトマトを育てており、「実が付いたよ！」「大きくなったよ！」とニコニコしながら丁寧に鉢の中の草を抜いています。プールでは3年生がヤゴ救出大作戦実施中。「私、ヤゴのこと、好きになっちゃった！」と目がキラキラさせています。学校って、素敵だなあと思える瞬間です。たくさんの地域の方、保護者の方々のご支援のおかげです。子供たちはいろいろな体験をしながら成長していきます。時には失敗もあるでしょう。でも、失敗するからこそ学べるものもあるのです。「小さなけがを体験させて大きなけがを防ぐ」という言葉もあります。おらかな目で見守りながら子供たちをのびのびと育てていきましょう。

